

塩素剤の作り方

* 一般的な消毒に使われる塩素剤の濃度。器具・床は市販のハイターで可

	→	キャップ2 400ppm	漂白 非常時
	→	キャップ1 200ppm	通常
	→	キャップ1/2 100ppm	野菜の 殺菌
	→	一滴弱 2ppm	プール 水

大腸菌や、サルモネラ、カンピロバクターなどはこれよりも薄い濃度で十分殺菌できます。

ここにある非常時というのは、病原性大腸菌O157などの糞便で汚染されたものを消毒する場合など、相当の汚染が予想される場合に適応します。

普段の拭き掃除などでは100ppm程度で十分だと思われます。

野菜の殺菌にはピューラックスを使う。

* こちらはノロウイルス対応の塩素剤の濃度になります



消毒液の濃度は

吐物・便	
床・器具	
衣類	
手洗い	せっけんでていねいに
風呂桶	水抜時に原液スプレー

吐物・便の場合、たっぷりかけて10分は放置してください。

拭き取る時も、この液を浸したもので拭き取ること。

床・器具の提示している濃度は普通に掃除をするときの濃度です。

非常時には吐物・便の濃度で対応してください。

風呂桶は(水際から上の部分から)カビ取りスプレーをかけてから水抜きします。そのまま10分放置してよくすすぎます。

かんたんな 非常時の塩素水の作り方

2リットルのペットボトルの肩の半分くらいまで水を入れたら、残りを市販の塩素剤で満たす。これでだいたい1000ppmになります。



* 消毒薬の特徴をちゃんと

● 塩素系の消毒剤



いわゆる家庭用の塩素系の消毒剤

主成分は次亜塩素酸ナトリウム

6%が主流になります。

60000ppmです。

業務用に12%というのものもあるらしいですが、まあ、ふつうに手に入るものは6%と考えてよいようです。

ピューラックスは食品添加物の認可を取得していますから、食品にも使えますが、その他の「キッチンハイター」などは界面活性剤(洗剤成分のひとつです)等をプラスしてありますので、器具・容器・ふきんなどの消毒用です。

家庭用のハイターなどは流通や保管状況等で活性が落ちてくるので、メーカーでは50000ppmと公表していますが、製造時には60000ppmあります。

現場で使用する際は、こころもち(一割程度)多めにすると基準濃度になります。

目安として提示されている基準濃度も、多少の安全率は見込んでありますので、使いすぎは無駄になります。適正な濃度で使いましょう。

塩素剤は人に使用することは避けたほうがよいと思います。手が荒れます。



おなじみ?ミルトン、

次亜塩素酸ナトリウム1%。

10000ppmです。

説明書を読むと、器具・容器等の消毒用に開発されている商品のようです。

液体とタブレットの製品があります。

できる液の次亜塩素酸ナトリウムの量には大差ないようです。説明書をよく読んで適正に使いましょう。

哺乳瓶の消毒用に推奨されている濃度は、ミルトン20mlを80倍に薄めると書いてありますので、計算すると125ppmになります。

すすがなくていいという根拠は、比較的にしろ薄いからだと思いますが、この濃度ならすすいだほうがいいでしょう。

この薄め液の濃度ではノロウイルスを殺す力はありません。

ホームページの説明にもこの濃度の薄め液で効くとは一言も書いてありませんね。

濃くすれば効果はあります。

器具・容器対象のノロウイルスの消毒なら25倍に薄めればよいわけで、水1リットルにミルトン40mlで400ppmになります。



次亜塩素酸ナトリウムに水酸化ナトリウムなどを混ぜた製品。
次亜塩素酸ナトリウム1%。
10000ppmです。
混ぜてある成分は作用が強いものが多いので(水酸化ナトリウムが多いようです)、安易に他の用途に流用してはいけません。

目的別に開発されていますから、使えるところはどこかよく説明を読んで使ってください。このトイレハイター転倒しても液がスムーズに出る容器です。優れもの！

●アルコール系の消毒剤

アルコールは乾くときに殺菌が行われます。スプレーした後に、きれいな布かペーパータオルで延ばしてやるのが効果的。

いちばんポピュラーなのが70%のエチルアルコール水溶液です。この濃度がいちばん効きます。



アルコールが効果を示す濃度範囲は狭いので、濡れていては効果が期待できません。乾かしてからスプレーしてください。

いろいろ混ぜた製剤が市販されていますが、アルコールが揮発した後で何かと余分な成分が残るのは考えものです。安いものでかまいませんから、シンプルなものが食品現場で使うにはベストと考えます。

たとえば、ウエルパスは手指の消毒限定です。

柑橘系の成分が入っているものには、プラスチックを溶かすものもあります。

食品添加物製剤のみで構成されていても、食品に使用できないものもあります。注意してください。



ちょっと注目株 ・アルタン「ノロエース」

特定のメーカーの商品を紹介するのはどうかとは思いますが、この商品はあまたある「アルコール+なんか(効果を增强する成分)」とは発想が根本的に違うので、紹介します。

使い方によっては効果大。

広島大学と産学協同開発した製品で、「柿渋の発酵物質」が添加されています。

ノロウイルスを殺すことはできないのですが、強力に固めて感染しにくくする製品です。

ある程度多量のノロウイルスがついていることが考えられる場合に使うと効果があります。

たとえば、

- * 嘔吐物中のノロウイルスを固める
- * 感染が疑われるときの手洗い後のスプレー
- * 汚染が強く疑われる場所の消毒 などなど

注意

- * 柿渋ですので、時間がたつとあっすらと茶色に染まる場合があります。

●二酸化塩素を利用した製剤 ・無臭元工業「シルフィ」

前出の各製剤と違って気体で殺菌します。

ノロウイルスに対する効果は塩素系に準じます。

ノロウイルスに対してどれくらいの即効性があるかはまだ未検証です。インフルエンザウイルスでの実験では効果あり。トイレのような比較的密閉されている空間で、使用間隔がある程度空いている場合には相当の効果が期待できますが、大勢の人が頻繁に使用する場合にはあまり効果は期待できません。



次のような使用方法は非常に有効だと思います。

- * おもちゃ箱や布類など、プラコンテナに収納した場合、一緒に入れておく
- * 吐物・使用したティッシュなどの殺菌(蓋付きのゴミ箱の蓋裏に貼る)
- * エアコンの吐き出し口や天井に貼って、空気の殺菌(非常事態に短期間: 新型インフルエンザに有効と考えられています)
- * 下駄箱・ロッカー・リネン室・布団等寝具の殺菌・消毒

注意

- * 呼吸器系の疾患のある人やアレルギーの症状のある人の場合症状が強くなる場合があります。

ノロウイルスは生きていますか死んでいるか現在では判別できない

細菌が活着しているかどうかは、培養して増えてくれば、活着していると判断できます。

ノロウイルスはまだ人工的に培養することができません。

よって、各製剤メーカーは、①遺伝子の有無を測定したり、②電子顕微鏡で構造が破壊されていることを確認したり、③培養の可能な「ネコカリシウイルス」を換わりに使ったりして判定しています。

この方法の中で、①の方法ではウイルスが活着しているかどうか判定できません。

②はとても視野が狭いので、全てのウイルスが破壊されたかどうか確認することはできません。③ネコカリシウイルスは近い仲間のウイルスですが、ノロウイルスとはヒトとチンパンジーくらいは異なりますので、類推する程度の判定しかできません。

特にネコカリシウイルスは酸に弱いため、ノロウイルスに比べて死にやすく、薬剤の効果はより効果があるように判定されてしまいます。

効果の判定に使ったものが、「ノロウイルス」か「ネコカリシウイルス」か、よく注意して説明を読んでください。「ネコカリシウイルス」の場合、要注意です。